

平成27年度定時総会の概要

5月21日、仙台市内のホテルで平成27年度定時総会を開催しました。東北6県および新潟県などから、会員を中心として約300名の出席がありました。

高橋實会長は、冒頭の挨拶で、国のエネルギー政策について触れ、「それぞれ一長一短のあるエネルギー源を上手く組み合わせ、多様性のあるエネルギー構成とすることが基本である」とした上で、火力が約9割を占める現在の日本の発電状況について、安定供給、経済効率性の向上、環境への適合の観点からそれぞれ問題点を指摘し、「福島第一原子力発電所の事故以降、各原子力事業者は数々の安全性向上対策を実施し、原子力施設の安全性は飛躍的に向上している。原子力規制委員会による効率的な審査、そして、原子力発電の早期再稼働が望まれている」と強調しました。また、「平成27年度は、わが国の今後のエネルギーのあり方を決める重要な時期となる。当会は、エネルギーを巡る情勢変化を敏感に捉え、適切かつ客観的な情報提供に取り組む」と述べました。



議事では、

- エネルギーを巡る情勢変化を捉えた適切かつ客観的な情報の提供
 - 放射線に関する正しい知識の普及啓発
 - 福島県をはじめとする被災地の復興支援の継続実施
- を活動の力点とする平成27年度の事業計画が原案どおり承認されました。



また、役員の改選を行い、新会長に東北電力副社長の井上 茂氏が選任されました。

そして、会議の終盤に、井上会長から「当会がこれまで築き上げてきたネットワークを大切に、『正しい情報を提供、共有すること』、『対話により将来のエネルギーのあり方を考えること』という2つの視点を持って諸活動を進めていく所存であり、当会へのご指導ご支援を今後も変わらずお願いしたい」と就任の挨拶がありました。

総会後の記念講演会では、政治評論家の加藤清隆氏から「激動の政治情勢を読む」と題してご講演いただきました。

